

## 5 . まちづくりの視点

調査区域の特性から、まち（区域）の抱える課題について、いくつかの項目に分けて整理してきた。今後、南吹田地域のまちづくりを進めるに当たっては、これらの課題への対応や、地域に求められる「まちの方向性」を検討していく必要がある。

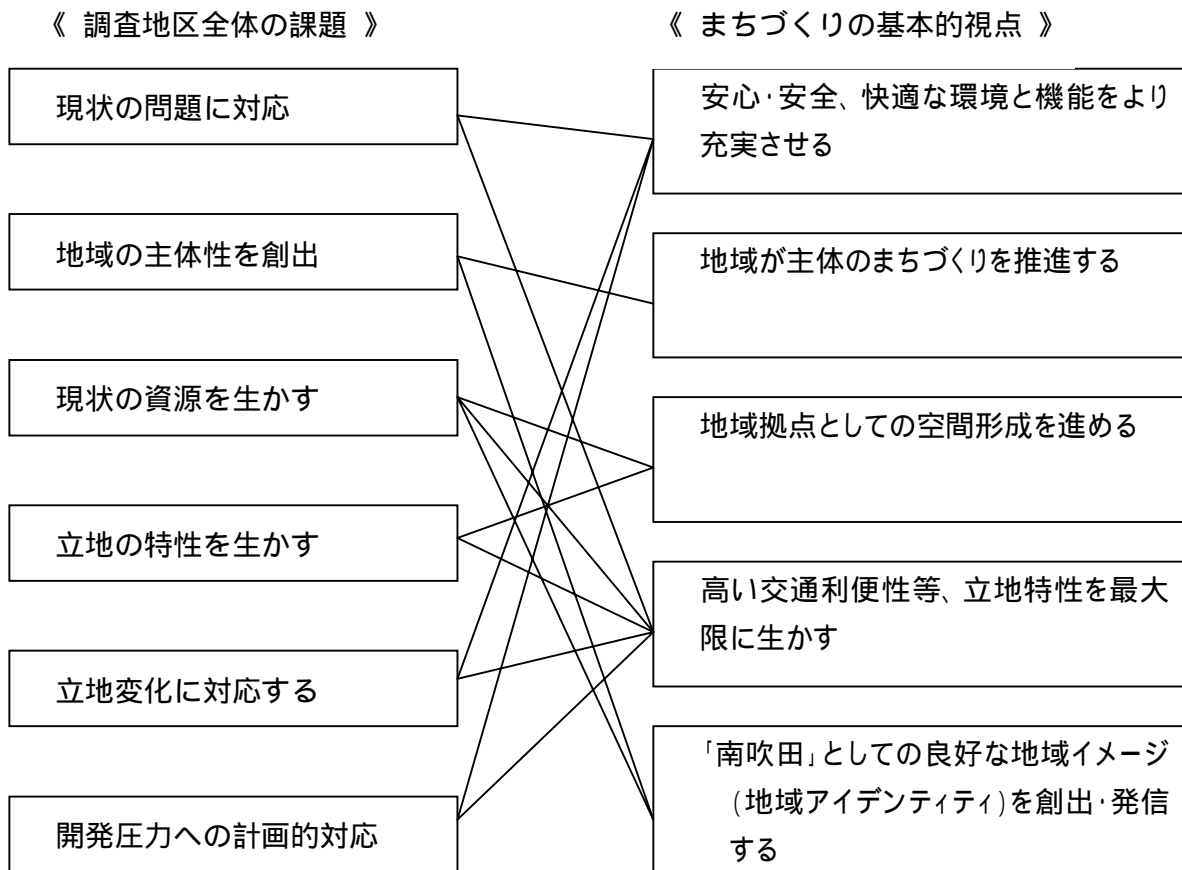
ここでは、まちづくりの課題への対応や、まちの方向性を検討するためのまちづくりの基本的な視点を整理するとともに、今後これを踏まえた「まちづくり構想」策定に向けて、その視点に対する具体的なまちづくりの展開例を整理する。

### (1) まちづくりの基本的視点

#### 1) まちづくりの視点整理

南吹田地域では、住民意向として交通機関や日常の買物・医療・福祉・市民サービスなどの利便性と交通・防犯・防災などの安全性に対する不満が高く、問題点として、交差点の事故、歩道等の不足、工場等の振動・臭い、不法駐車、治安への不安、ガード下の安全などが具体的に示されている。また、まちづくりの課題も、これらに対応した安心・安全なまちを志向し、歩きやすい安全な歩行者空間の整備、医療・福祉など市民生活を支える施設の立地、防犯体制の整備・充実を掲げている。一方、過半の人がこのまちに住み続けたい思いを持ち、まちづくり活動への関心も高いといえる。

従って、これらの課題に対応しつつ、新駅開設など交通利便性の向上を踏まえ、吹田市南部の立地を活かした、安心・安全、かつ、特徴と賑わいのある誇れるまちづくりを進めることが求められ、次の5つの視点が基本的なまちづくりの方向として整理される。



## 2) まちづくりの基本的視点

今回の調査においてこれまで整理してきた地域の抱える課題に対応し、調査区域及びその周辺地域における今後のまちづくりを考える上での基本的視点の具体的内容は下記のとおりである。

今後は、地域の参加とともに総合的な施策の検討の中で、まちづくりのコンセプトと具体計画を定めていくこととなる。

### 安心・安全、快適な環境と機能をより充実させる

- ・南吹田はこれまでも暮らしの場として多くの市民が生活しており、今後も暮らし続けることが基本である。また、これまで以上に多くの市民の居住が進む可能性がある。そのため、暮らしの場として必要な機能と環境をまちの基礎的条件として備えるとともに、より安心して快適な生活環境を充実させるという視点。

### 地域が主体のまちづくりを推進する

- ・地域住民や地域に立地する企業等が互いに協力し、自らが主体となって地域に根ざした「協働のまちづくり」を推進するという視点。

### 地域拠点としての空間形成を進める

- ・南吹田は吹田市南部の地域拠点として発展することが求められており、そのためにふさわしい空間形成を進めるという視点。

### 高い交通利便性等、立地特性を最大限に生かす

- ・大阪外環状線鉄道や(都)十三高槻線の開通、江坂や新大阪との近接性、神崎川沿いへの産業集積、リバーフロントなど、立地環境のポテンシャルを最大限に生かし、南吹田のまちの発展を促すという視点。

### 「南吹田」としての良好な地域イメージ(地域アイデンティティ)を創出・発信する

- ・現状では「南吹田」としての明確な地域イメージはないが、ハード・ソフト両面からのまちづくりを進めることにより、良好な地域イメージを創出し、地区内外に発信することにより、南吹田のイメージアップを図るという視点。

## (2) まちづくりの展開例

これからの南吹田地域のまちづくりは、市民と市が共有した「まちづくり構想」をもとに進めていくことが求められる。

今後、南吹田地域の「まちづくり構想」を市民参加で検討するための、まちづくりの基本的視点を踏まえた、より具体的話し合いができる題材として、まちづくりの展開例とそれらの目指すべきまちの姿の例を次のように提案する。

今後は、これらを活用し、「まちづくり構想」を検討していくものとする。

### 【南吹田地域で考えられるまちづくりの展開例】 ～市民参加で「まちづくり構想」を検討する題材～

#### 《 まちづくりの基本的視点 》

安心・安全、快適な環境と機能をより充実させる

地域が主体のまちづくりを推進する

地域拠点としての空間形成を進める

高い交通利便性等、立地特性を最大限に生かす

「南吹田」としての良好な地域イメージ(地域アイデンティティ)を創出・発信する

#### 《 まちづくりの展開例 》

- 1) 駅前として魅力的な空間の形成
- 2) 居住環境の充実
- 3) 緑と水に親しむ自然環境の創出
- 4) 界隈性のあるまちの形成  
(界隈性: 人の気配や賑わいを感じられること)
- 5) 都市型産業の創造・育成

## 1) 駅前として魅力的な空間の形成

### 【目指すべきまちの姿】

鉄道や幹線道路の整備を前提として、鉄道による「新大阪」「東大阪・八尾方面」との接続、「江坂」やシビックゾーンである「阪急吹田」との近接性など、多くの人が行き交う場として、人が集まる活気と賑わいのある魅力的な空間形成を進める。

### 【具体例】

求心力のある都市機能の立地誘導を図る。

市南部の玄関口として建物のデザイン誘導を促進するなどアメニティの向上を図る。

### 【参考事例】

駅前広場や歩行者空間へのアート・モニュメントの導入（京都市山科区 山科駅前地区）

山科駅前地区の再開発事業によるまちづくりにおいて、京都の東の玄関口にふさわしい魅力あるまちづくりをめざし、広場や歩行者空間にモニュメント・彫刻を設置することとした。

導入にあたっては「モニュメント・彫刻導入検討委員会」を設置し、彫刻等の選定を行っている。



## 2) 居住環境の充実

### 【目指すべきまちの姿】

鉄道アクセスのよい利便性の高さや、都市基盤整備による公園や街路樹のアベニューが彩り、リバーフロントエリアとしての広がりのある空間が身近にあることなどを魅力として、子育て層から高齢者層まで、多様な世代の居住を想定した誰もが住みやすい、安心、安全な高質な都市型住宅地としての整備を図る。

### 【具体例】

住宅地としての魅力を向上させるため、歩道整備や公園再整備などの都市基盤施設のリニューアルを図り、地域全体における住環境の向上を図る。

潤い豊かで良好な住宅地景観をはぐくみ、地域全体における住環境の向上を図る。

自治活動や防災・防犯活動、地域福祉活動をはじめとする、地域の住民主体の活動を総合的に推進するエリアマネジメント機能を育成し、住民主体のまちづくりを推進する。

### 【参考事例】

地域の居住を支える住民主体の取り組み（東京都多摩市 NPO FUSION）

多摩ニュータウン南西部の長池公園を中心に、住民の暮らしを様々な角度から支援することを目的に活動を行っている NPO（特定非営利活動法人）

「住民としての実感」から出発し、草の根的な活動を展開しながら、地域との信頼関係を構築して事業を推進。事業ごとに専門家を含むチームを結成している。地域活性化支援を行う「地活隊（ちいきたい）」、住宅管理支援を行う「住見隊」、住まい作り支援を行う「夢見隊」、高度情報化支援を行う「高支隊」など、地域での生活全般に関わる事業を展開している。



### 3) 緑と水に親しむ自然環境の創出

#### 【目指すべきまちの姿】

公園や緑地などの緑の空間と神崎川などの水辺空間に親しむことのできるよう、身近な自然環境の保全、創出と活用を進める。また、河川と一体となった開放的な空間を有するなど、南側に神崎川を臨むリバーフロントエリアとして魅力的な環境の創出を図る。

#### 【具体例】

緑豊かなまちづくりを進めることにより、地域イメージを向上させる。

水や緑で構成される「アメニティーネットワーク」の形成を進め、地域の自然環境、野鳥や昆虫など生物の生息環境（ビオトープ空間）の維持、創出を図る。

「馬廻り水路」、「吹田くわい」など地域の歴史を伝える資源を活用して、環境共生をテーマとした地域アイデンティティの再生を図る。

神崎川と市街地との空間的な連携を図り、親水性の向上など「リバーフロント」として付加価値の高い環境の創出を図る。

#### 【参考事例】

三島グラウンドワークの取組による農業用水の再生（静岡県三島市「源兵衛川」）

源兵衛川は、湧水を水源として、市街地を通る全長 1.5km の農業用水路である。

かつては美しい水辺空間が保たれていた源兵衛川は、1960年代から湧水の減少が進み、渇水期には家庭雑排水の垂れ流しやゴミの放置により水辺環境が悪化し、汚れた川のシンボルになっていた。

そこで、ふるさとの原風景を取り戻そうと多くの市民が立ち上がり、身近な環境改善を進める新たな市民運動であるグラウンドワーク活動に取り組み、この活動をきっかけとして、グラウンドワーク三島実行委員会（現 NPO 法人グラウンドワーク三島）が誕生した。

8つのゾーンからなる親水施設が整備され、お互いが協力し合いながら源兵衛川の水辺環境の再生に努力し、事業終了後も、「源兵衛川を愛する会」等、地域住民の手によって生態系を守り育てる地道な活動が続けられており、今では自生したホタルが乱舞する自然度の高い川に変貌しつつある。



ゴミや家庭雑排水でドブ川と化した整備前の源兵衛川（1980年代）



「水の都・三島」の清流のシンボルとして蘇った源兵衛川（2002年）



#### 4) 界隈性のあるまちの形成

##### 【目指すべきまちの姿】

人の気配やぬくもり、安らぎが身近に感じられ、来街者にも住んでみたいと感じさせる界隈性のある空間形成を進める。また、居住者と来街者の交流と活動が生まれ、暮らすことが楽しいと思えるまちを目指す。

##### 【具体例】

街角広場の整備など地域の暮らしが感じられる、歩いて楽しい「しかけ」がある空間の形成を図る。

暮らしを支える地域密着型の商業機能の立地誘導を図る。

##### 【参考事例】

住民同士の交流が生まれる場（ひがしまち街角広場 大阪府豊中市）

千里ニュータウンの地域の人たちが、住民の交流の場となる「ひがしまち街角広場」を開設しています。新千里東町の近隣センターの空き店舗を利用したものです。

住民のボランティアで運営されており、朝はご近所のお年寄り、昼はこの地域で働いている人たち、そして午後からは学校帰りの子供たちでにぎわっています。世代を越えた住民たちのふれあいが見られます。



## 5) 都市型産業の創造・育成

### 【目指すべきまちの姿】

ソフト系 IT 産業の集積が見られる江坂との近接性や、業務機能の集積する新大阪駅や東大阪・八尾の工場地域と鉄道で直結する立地特性、比較的安い地価を生かし、それらの拠点と連携しサポートする都市型産業のサブ拠点としての役割を担う産業振興を図る。

### 【具体例】

ベンチャー企業などを育成するエリアとして、創業支援を進めるための施設、機能の充実を図る。

立地する企業も市民としてまちの環境向上活動などへ参加、貢献して、企業が地域との共生を図る。

\* 都市型産業：都市圏において、産業集積、人材、知識などの都市のストックを経営資源として活用しつつ、都市圏の多様なニーズを受け止める高付加価値な産業機能

### 【参考事例】

IT 分野における創業を促進する創業支援施設

(大阪府 IT ビジネスインキュベータ「incueit」(大阪市淀川区))

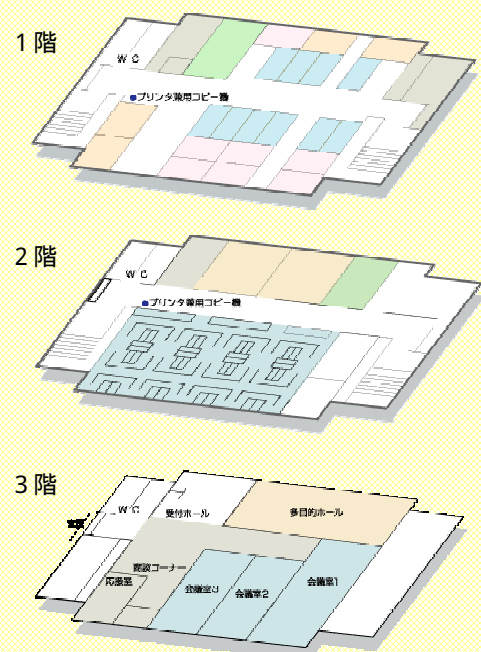
IT 技術を活用したビジネスアイデアと強い起業意欲を持つ起業家に、活動の場を提供することにより、IT 分野における創業の促進を図るため、平成 13 年 5 月に大阪府が設置した創業支援施設で、財団法人大阪産業振興機構が運営している。

利用者間の交流やコラボレーションも活発に行なわれており、平成 17 年 1 月には、incueit 出身企業家が力を結集し協力して共同事業を行うため、「大阪 IT ビジネス協同組合」を設立している。

1 階：共用スペース（会議室・多目的ホール）

2 階：オープンオフィス（リフレッシュルームなど）

3 階：個室ブース（8～12㎡ 21 室）



地下鉄御堂筋線 西中島南方駅から徒歩から 500m  
阪急京都線 南方駅から徒歩から 500m

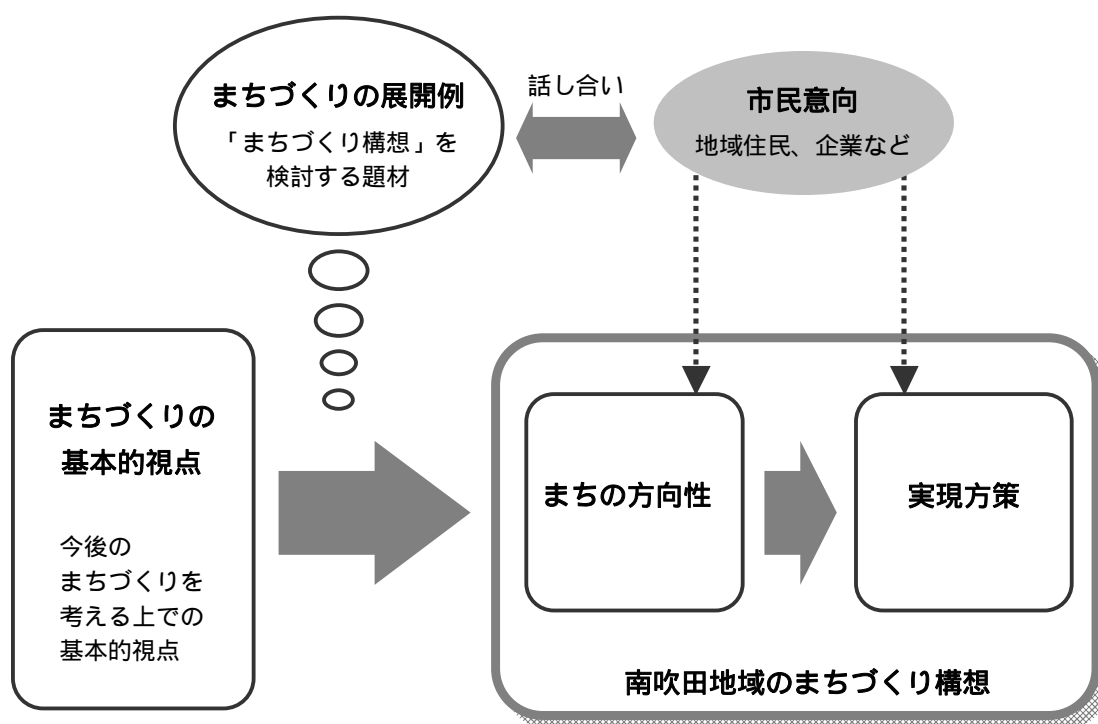


### (3) まちづくり構想に向けて

今回の調査では、調査区域の現況、意向調査等を踏まえた地域の抱える課題をもとに、5つの「まちづくりの基本的視点」を整理した。さらに、今後、「南吹田地域のまちづくり構想」を住民・企業等、地域の皆さんとともに考えていくための題材として、5つの「まちづくりの展開例」を提案した。

今後、これらの展開例を話し合いの題材にして、議論を深め、地域住民・企業等の意向を反映させながら、まちの方向性を導きだし、実現方を踏まえた「まちづくり構想」を策定していくこととする。

図)「南吹田地域のまちづくり構想」策定への流れ



## まちづくり構想に向けての留意点

「南吹田地域のまちづくり構想」策定にあたり下記のような点に留意する必要がある。今後、これらを踏まえ、市南部の玄関口としてふさわしい顔となるまちづくりを進めていく必要がある。

### 歩いて暮らせるまちづくり

徒歩圏内において日常生活が満足できるような生活利便性の向上やコミュニティの充実を図ることが必要である。

### 地域におけるまちづくり意識の向上

「まちの方向性」等を話し合う中で、地域住民のまちづくりに対する主体性を育むことが必要である。

### 多様な主体との連携

市民・事業者・行政・専門家等との協働による連携を検討する中で、居住環境の充実・界隈性の創出・産業振興等、総合的なまちづくりを進めていく必要がある。

### まちづくりに関連するルールづくり

「まちの方向性」の共有を進めるとともに、それを具体化するため、土地利用等に関する地域独自のルールづくりを検討する必要がある。

### 大阪外環状線鉄道の整備にあわせた都市基盤の整備

大阪外環状線鉄道が開通する際には、その効果がすぐに発揮されるよう、駅前広場など関連する都市基盤の整備をあらかじめ進めておく必要がある。特に、都市計画道路西吹田駅前線は、新規バス路線の導入や駅周辺の活性化に重要な役割を担うため、早期の整備が望まれる。